



吉原さん

水害の前後で変わったこと

当時、ここは目の前が久慈川で、まさに被害があつて半壊扱いつついうか、床上もう六十センチぐらいまでいっちゃつて。それで本当に復旧作業でしばらくかかったんですけども。やっぱり生まれて初めてのことがあったんで。今まで本当に他人事だと思つてたんですよ。だからそこで一つ、誰でも起こるんだなって、意識の変化。あともう一つは、全部流されちゃったんですよ、思い出のアルバムとかレコードとか。ここの二階に残ってるもの以外全部。だから本当にレコードは、私二〇〇枚ぐらいコレクションとしてあつただけけど、全部。それで当時はショックだったんだけど、逆に断捨離じゃないけど、もうそういうものいらなくなっていくやっぱり自分の中で、積み重ねじゃなくて積み減らしたことで、何か見えてきたというか。

別にそんなのなくても、そういうような意識は出ましたね。やっぱり失つたことで、逆に言ったら身軽になったというかですね。

得た教訓

こつて中古で買ったんですけど、前任んた方が二回、水害にあつて、水戸に家買つて、ここをぶつ壊して。そのときの教訓で一階部分を上げました。隣はもう住んでないんですけど、あそこも全部、ここ本当に湖みたいになっちゃつたんですよ。だから六十センチで済んだんですけど、もし一階部分をそのままだったらここも駄目。

被害後の片付け

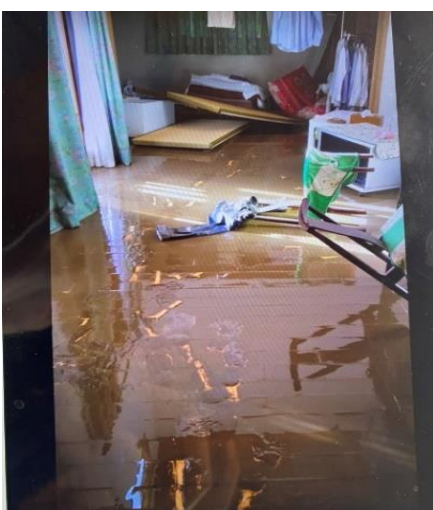
ボランティアの方も来てもらったんですけど、もう私のはいいからと。私の方は良い方なんですよね、みんな二階全部いっちゃつてから。別のところ行つてもらつて、一人で（片付けをした）。十月十二日に水害で、結局年末まで。お風呂も全然入れなかったから、町の方で温泉あるんですけど、あそこ無料で開放してくれてたんで、毎日温泉通つて。あとね、洋服、下着。それも役場の方で無料でボランティアの方が、下着とか支給してくれて助かりましたよ。

今後の大子町に期待すること

やっぱり今の若者の方は芸術とか、そういうのでいろいろいらっしゃつてるんで、だから若い人が何か成長できる場所を。もう大子駅も廃線になるとかあるじゃないですか。そういうことよりも（若者に力を入れてほしい）。

占いで地域おこしを

大子町の最初の地域おこし協力隊です。占いで占いで十年目が二〇一四年で。十年目だから、何かちよつと変えたいと思つて。で、地域おこし協力隊に占いで町おこしみたいな企画出したら大子町だけ唯一採用されたんです。それで二〇一四年からお世話になって。協力隊のときは平日はわさびの復活作業をして、土日はカフェで占いで、二〇一七年に任期終わつてここ買ったんですよ。



ご自宅の様子